

5年2組 総合的な学習の時間学習指導案

「笑顔でかがやこう会見～会見ホタルサミットにむけて」

日時 平成29年9月15日（金）4校時
場所 5年2組教室

1. 単元について

(1) 単元の価値

本校区・金田地区は、ホタルの里として、県内でも有数の観光地になっている。6月には、「ホタル祭り」が行われるなど、地域おこしの重要な行事となっている。金田川のホタルが現在のようにホタルが飛び交う美しい川になったのは、地域の方々の長年にわたる地道な取り組みの成果と言える。もともと自然に見られていたホタルが20年前ごろにはほとんど見られなくなった。地域の会合の後、数人が昔の原風景を懐かしんでホタルを飛ばしてみようと活動が始まった。小松谷の奥にいたホタルを獲って放したり、幼虫のエサになるカワニナをとって放したりして、少しずつホタルが飛ぶようになった。活動は「南部町金田川ホタルの里」のメンバーと金田地区48世帯約200名の住民が地区をあけて行い、現在のような県内外から多くの観光客が訪れるまでになった。ホタル祭りの準備をする子ども会活動や祭りで販売する苔玉づくりをする女性部、草刈りやホタル提灯を作ったり設置したりする方々など、地域住民が一丸となってホタルの飛ぶ環境を守り、ホタル祭りを盛り上げている。川にホタルを飛ばせたいという夢を実現させた行動力や環境を維持するために地域住民が長年継続させているボランティア活動は素晴らしいことであり、地域のこれからを担う子どもたちは、この姿から多くのことを学ぶことができると考える。

本学級の児童は、4年生の時から総合的な学習で、金田川のホタルについて学習を継続してきている。4年生の時にはホタルについて調べたことをもとにクイズ大会を開いたり、「金田川ホタルの里」の協力を受けてホタルの幼虫の飼育、幼虫のエサのカワニナの放流、幼虫の放流と地域の方とのかかわりをもちながら体験活動を積み重ねたり、3年生を対象にした引継いでホタルの育つ環境を大切にしていきたいことなどを伝える活動をしたりした。4年生の学習を進める中で6月にあるホタル祭りに参加して「金田ホタルの里」の取り組みに協力したいという思いが強くなり、5年生になった今年度も金田川のホタルやそれを取り巻く環境の大切さについて学習を続けることにした。ホタル祭りへの協力・参加やホタル保護活動を続けてきた地域の方の思いを知る学習を通して、環境を守ることに実際の苦労ややりがいに気づき、地域で生きていく一員として自分に何ができるかを考え、主体的に行動できるようにしたい。

(2) 子どもの実態

今年度の7月に行った「総合的な学習の時間」についてのアンケートでは、下記の通りである。

	そう思う (%)	どちらかといえばそう思う (%)	どちらかといえばそう思わない (%)	そう思わない (%)
みよりの時間の勉強は好きだ	73	20	7	0
体験したことや集めた情報を整理したり、課題を解決するためにどの情報を使ったらよいか考えたりしている。	32	48	10	10
みよりの時間で、学級の友だちや地域の方と話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えている。	49	44	7	0
みよりの時間で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	27	56	17	0
地域をよりよくしようと思い、友だちや地域の方と協力して学習を行っている。	45	51	2	2
みよりの時間で学習したことは普段の生活や社会に出たときに役立つと思う。	71	20	7	2
地域社会などでボランティア活動に参加している。	24	34	20	22
地域や社会をよくするために何をすべきか考えている。	22	44	17	17

本学年の児童は、多くの子ども達がみよりの時間（総合的な学習の時間）が好きであり、学習したことは普段の生活や社会に出たときに役立つと考えている。またこれまでの学習から、地域をよりよくしようと思い、友だちや地域の方と協力して学習を行っているとも感じている。一方で地域や社会をよくするために何をすべきか考えたり、ボランティア活動に参加しているという子ども達は少なく、地域の方と学習したり、地域のことを学んだりすることのよさは分かっているが、主体性に活動する意欲に欠けていることがアンケート結果から分かる。また、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えることができていると感じている子ども達が多いが、実態は発表の声が小さく

く相手を意識して伝えることが難しい子ども達が多い。1学期はホタル祭りに参加し、ポスターの掲示やグッズの配布、ホタル募金の呼びかけなどの活動を行った。活動を通して地域の方や観光客の方に喜んでもらい、活動のやりがいを感じただけでなく、さらに多くの人にホタルのことを伝えたいと考えようになった。1学期末に全校集会の学級発表の機会があったので、それを活用して全校児童にホタル祭りで学んだことをもとにした発表を行った。伝えたい思いはあるものの、その方法や内容の選び方については課題が残った。児童は、4年生の時から「金田川ホタルの里」の代表・井塚照雄さんと赤井厚生さんにゲストティーチャーとして話をさせていただいたり、金田川での活動を支援していただいたり、ホタル祭りでお世話になったりして継続的に関わっていただいている。今回は、井塚さん、赤井さんに長年活動を続けてきた現在の思いを聞く。これまでゲストティーチャーとして教わってきた方から聞く意外な悩みに子ども達は驚くことが予想される。また、話として聞くだけでなくカワニナ獲りの活動を実際に体験することで、ホタルがすむ環境を守ることに多くの苦労があることにも気付くと思われる。そのような気づきから感じたこと、考えたことを話し合い、子ども達は自分たちにできることを真剣に考えると思われる。

(3) 指導にあたって

①ホタルがすむ環境を守ることを自分のこととして探究するための課題設定

金田川のホタルが飛ぶ環境は当たり前前に自然にあるのではなく、「金田川ホタルの里」の方たちが思い立ち、長年にわたって地道な努力で守られてきた環境であることを再び想起させるために、会の代表・井塚さんや赤井さんの取り組みや思いや悩みを直接聞いて知ったり、カワニナ獲りの活動を実際に体験したりすることで、自分たちにできる本当の協力は何かを考え、主体的に行動できるようにしたい。

②個やグループで探究に関与し合い、子ども同士、地域の方と協同的に学びを進める場の設定

ホタル祭りを盛り上げようとグループで活動する学習を通して、子ども達は金田地区の方たちのホタル祭りでの取り組みを間近に見たり、一緒に活動したりした。自分が調べたり、考えたりしていることを様々な思考ツールで見える化し、それらを元に話し合ったりさせる学習も積み重ねていきたい。これらの学習を通して、自分たちが伝えたいことは何なのか、取り組みたいことは何なのかより明確化されていくことと考える。また地域の方に参加していただくことで、子ども達だけでは気付くことのできない視点や情報が加わり、新たな気づきや深い理解、地域の方との協同的取組が生まれると考える。

2. 単元目標

金田川の自然環境緒を守りホタルを育てようとしている地域の方の姿勢や態度を学び、課題を共有しながら自分たちに何ができるか考え実践することができる。

3. 単元の評価規準

①知識や技能	②思考力・判断力・表現力等	③学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの
A 地域の方からの話を聞いたり、調べたりすることで地域の方の思いを知り、金田川におけるホタルを守る活動について理解している。	A ホタルについて調べて学んだことや活動して感じたことを、どのような方法で誰に伝えたらよいか考えている。	A ホタルの活動を通して、ふるさと会見のよさに気づき、ホタルを守るためにこれから何ができるかについて考えている。
I ホタルを守る活動に対する地域の方の思いを知り、ホタルと共存する大切さとすばらしさを知る。(相互性)	I 今まで調べたホタルについての情報を、伝える相手にわかりやすく、思考ツールを使って整理・分析したり、グラフ等を用いて分かりやすくまとめたりしている。	I ホタルについて学んだことを、他学年に伝えたり、地域の方にホタル祭りの参加を呼びかけたりしている。
U 調べたことを思考ツールを使って整理・分析したり、グラフ等を用いて分かりやすくまとめたりする技能。		

4. 単元構成（全58時間）

○学習活動	子どもの問い・思考	評価規準
ホタル祭りに向けて準備をしよう。(10h)		
○ホタル祭りで活動するために、井塚さんをお願いをする。 ○ホタル祭りでどんな活動をしたら良いか話し合い、準備をする。 ・ポスター ・パンフレット ・ホタルグッズ ・お面	・活動したい理由を自分たちで説明して、ホタル祭り実行委員会の井塚さんをお願いしたいな。 ・どんな活動をしたら、観光客の人を喜ばせることができるかな。 ・ホタルを見る時のマナーを守ってほしいな。 ・小さい子どもには、ホタルのお面を渡して、裏にはひらがなでホタルのことについて説明を書いたらどうか。	②ア ③ア
ホタル祭りに参加して地域を盛り上げよう。(2h)		
○ホタル祭りを盛り上げるために、活動をする。	・自分から声をかけるのは、勇気がいるなあ。 ・パンフレットを受け取ってもらえない人もいるから、声かけの言葉を変えてみよう。 ・自分のグループだけではなくて、他のグループも手伝おう。 ・ホタル募金の呼びかけをしよう。	②ア ③ア
ホタル祭りに参加した学びを児童集会で伝えよう。(5h)		
○ホタル祭りに参加した学びを一人一人振り返り、全体で発表する。 ○児童集会で全校に伝えるために、発表の準備をする	・観光客の人が喜んでくれたから、活動のやりがいを感じたよ。全校のみんなにも知ってもらおう。 ・ホタルのことをさらに知ってもらい、大切にしたいな。 ・楽しんで聞いてもらえるように、クイズ形式にしたらどうか。 ・写真を見てもらいながら発表すれば、より伝わるんじゃないかな。	②ア ③イ
児童集会の発表を振り返ろう。(2h)		
○発表の感想のアンケートを作り、全校児童や先生方に書いてもらい、それをもとに振り返りをする。	・アンケートをグラフにまとめて、みんなで話し合おう。 ・多くの人がホタルを大切にしようと思ってよかった。 ・自分たちの思いが、あまり伝わってなかったな。 ・劇にして発表すれば、さらに楽しんで聞いてくれたかな。	②ア ①エ

これから自分たちに何ができるか考えよう。(5h)		
○ホタルを守る会の井塚さんと赤井さんの活動の内容を聞き、困っておられることを知り、これからの課題をもつ。 ○カワニナをとって、放流する。 ○活動を振り返って感じたことや考えたことを振り返る。＜本時＞ ○どんな活動や発表をしたらよいか話し合い、今後の方向性を見つける。	・井塚さんたちの困っていることを、自分たちでどうにかできないかな。 ・こんな活動もされてたんだ。 ・カワニナを自分たちでとるのは、本当に大変だった。もっと多くの人に参加してもらいたいな。 ・井塚さん達の思いから、外れないようにしようよ。 ・ここで話合ったことが、実現できるようにみんなで協力したいな。	①ア ③ア
プロジェクトチームを作り、活動をしよう。(10h)		
○共通の思いをもつ仲間とプロジェクトチームを作り、活動を進める。	・ごみを拾いにいきたいな。 ・井塚さんと赤井さんの思いをもっと多くの人に知ってもらえるよう、伝えようよ。 ・途中経過をみんなで伝え合っ、さらによくなるようにアドバイスを送りあおう。	②イ
会見ホタルサミットを開こう。(19h)		
○地域の方を招待し、会見ホタルサミットを行う。 ○サミット後に、振り返りをする。	・自分たちが活動してきた思いを伝えるサミットにしよう。 ・自分たちの思いが伝わるサミットになったかな。 ・井塚さんたちの助けになれて良かった。	②ア ③イ
今までの活動を振り返り、1年間のまとめをしよう。(5h)		
○1年間の活動を振り返り、4年生に引き継ぎ会をする。	・今までの活動はどうだったかな。 ・この活動がさらに続いてくれるといいな。4年生に思いを引き継ごう。	①エ ③イ

5. 本時の学習

(1) 本時の目標

井塚さんと赤井さんの話やカワニナ採取・放流活動を振り返り、ホタルがいつまでもすめる環境を守り続けたいという思いを高め、これからの活動や生き方について自分の考えを伝え合うことができる。

(2) 準備物

・イーゼル ホワイトボード 付箋 ふりかえりのワークシート

6. 本時について

目指す姿

自分たちの活動や話を聞いたことを感じたことを友だちと伝え合い、これからの活動や生き方について本気で考えている。

- ・今までの活動を振り返る。
- ・はじめのあいさつ

課題

今までの活動で感じたことをもとに、「これからどうしていきたいかを伝え合おう。」

「活動を経験して感じたこと、これからどうしていきたいか」をグループで伝え合う。

- ・井塚さんと赤井さんのお話の中で、26年間も長い間活動をされていて、「やめよう」と思ったことがないという所がすごいと思った。自分たちもこれから活動するときは、あきらめずにがんばりたい。
- ・井塚さんたちが努力することをあきらめなかったから、今こんなにホテルが飛んでいる。だから守り続けていきたいな。
- ・カワニナを増やしてほしいという思いを聞いた。だから自分でもカワニナを探してとりたい。
- ・つかれた時にホテルを見て、元気づけられたという話を聞いて、ぼくも同じだと思った。もっと多くの人に同じ気持ちになってもらいたい。

学級全体で伝え合う。

- ・井塚さんたちがあきらめなよと思ったことがないように、わたしもこれからすぐにあきらめないようにしたい。
- ・今も続いている活動のおかげで、多くの観光客の方が来るホテル祭りが南部町で行われているのはとても誇りに思う。だからこの活動に参加できてとてもうれしい。どんどん活動をみんなで考えたい。
- ・募金が5万円集まっていると聞いて、すごいと思った。自分も募金の呼びかけをしていきたい。
- ・自分達の質問にしっかり答えてくださった。これから活動するときもわからないことがあったら、質問をして役に立ちたい。

ゲストティーチャーの赤井さんの話を聞く。

振り返りをする。

・あつち

赤井さんが喜んでくれて、うれしかった。これから活動がんばりたいな。

これから井塚さんと赤井さんの困っておられることに少しでも力になれるといいな。

これからの活動に本気で取り組むぞ。

留意点

支援

相手の目を見て、うなずくなど反応しながらグループの友だちの思いを聞き合えるようにする。

付箋を用いて伝え合いをする。1人ずつ発表しながらホワイトボードに付箋を貼っていく。これからどうしていきたいかで似たような意見があれば整理ができるようにする。

【指導上の留意点・支援・評価】

本時までには、自分たちの活動を振り返り、自分がどんなことを感じて、これからどうしていきたいのか考える。個人思考の時間を十分に確保する。また、その思いを右のような付箋に書いておく。

付箋
活動をして感じたこと
.....
これからどうしていきたいか

井塚さんと赤井さんの思いを分かりやすいよう掲示する。

本時に至るまでの自分たちの活動や学習の足あとも掲示しておく。

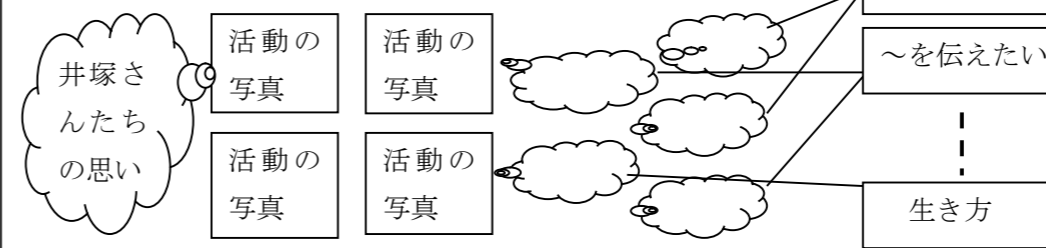
板書

今までの活動の写真（話を聞いたこと・カワニナの放流）を黒板に掲示する。そこから感じたことを写真の右に板書し、これからの思いとつなげ、感じたこととこれからの思いとのつながりが分かりやすく見えるようにする。

ホテルの里の赤井さんに、子どもの思いを聞いた感想を話していただき、これからの活動の意欲をもたせる。

板書計画

【課】今までの活動で感じたことをもとに、これからどうしていきたいかを伝え合おう。



評価

③ア ホテルの活動を通して、ふるさと会見の良さに気づき、ホテルを守るためにこれから何ができるかについて考えている。※評価方法…発言・振り返りワークシート

理由をつけて自分の意見を言ったり、友達の意見を聞いたりする。

